



▲妖狐「青山孤」が娘に化ける場面。欄外の小さな余白に25頁（13丁）にもわたって著者に
対する批判が書き込まれている。 著…橘崑崙、画…葛飾北斎

北越奇談

(16—69) 5冊

本書は現在の新潟県と富山県の不思議な話を集めたもので、『北越雪譜』と並んで越後の2大奇書と呼ばれています。

海上の幽霊船や松前藩の谷川に現れた巨大ガマの話、老狐に化かされた村長の話、すっぱん料理屋の主人が夜ごと数百匹のすっぱんの幻に襲われて出家する話など、怪しげで楽しい話がたくさん紹介されています。

さらに面白いのは、本書はもとが貸本屋の本で、欄外に江戸時代の読者の落書きがあることです。

例えば「この本の作者は博識を自慢して人を批判するが、奇怪なだけで役に立たない」と辛口な意見が延々と続きます。ところがその後には別人の筆で「この作者への文句を書いている人も物知り自慢だ。理屈だけで批判するな」と厳しい反論があります。

もちろん昔も今も貸本に落書きすることはマナー違反ですが、当時の読者たちが夢中で読み、我を忘れてつい書いてしまった、という姿を想像するとちよつと愉快ですね。

シリーズ70 西尾の古と探る

東禅寺事件と西尾藩

文久元（1861）年5月、元水戸藩士が英国公使館に充てられていた高輪東禅寺を襲撃する事件があり、西尾藩はその警備の任に当たっていました。この頃には、江戸市中に外国人公使などがおり、外国奉行は万一の事件を恐れ、各国の公使に対して警戒を厳重にしていました。

西尾藩は最初オランダ公使館である麻布伊皿子の守備を命ぜられ、後に英国公使館東禅寺の塔頭上洞庵の裏手で警備に参加していました。28日、水戸藩士14人が品川宿の遊女屋虎屋に集合し、「此の度尊攘の大儀に基づき」と東禅寺を襲いました。夜10時頃、見回り役2人が浪士を発見し、合図の拍子木を打ち鳴らし、浪士と警備役人と切り合いになりました。英国代理公使オリファントや長崎領事モリソンらが負傷、浪士側3人が斬殺

され、1人は西尾藩警備役に捕らえられました。藩主松平乗全は、怪しき者1人柳鉞三郎を召し捕って縛したところ、趣意書を持っていたので、彼を家来の者より外国奉行支配へ渡すと幕府へ報告しています。この報告を受け、江戸城白書院において老中が列座する中「家来共取り計らいがよく行き届き、宜しき儀と一段の事に思う」と乗全に申し渡され、また、警備を指示していた杉戸助右衛門も江戸城に呼び出され、時服二領を拝領しています。一方、公用人が老中安藤宅へ呼び出され、初谷良吉・鈴木鬼子助・村山勝之進の3人に銀5枚が下される事を申し渡されました。

明治22年になって、英国使節団を守った勇敢さに対して英国政府より女王ビクトリア銀賞牌（メダル）と若干の金子が贈られています。